

のびのび通信 第79号

2013年1月

「のびのび」も9年めに突



入です。

新年の活動は、陶芸教室からスタート。もう、すっかり定着した活動のひとつですが、何度やっても、やり方を復習することは大切なことですよ。今回は、はじめて挑戦するお子さんもいらっちゃって、全員で、実演を交えた説明を聞きました。そして、不安を最小限に抑えて、オリジナル作品を作ってみたいわい。

この季節、ちょっとヒンヤリする粘土をコネコネしていると・・・、もちろん、自分だけの構想があって、その形に向けてコネコネしているのですが、素敵な作品に大変身！さらに、これを先生に焼いていただきます。数か月後に、さらに変身する作品に再会するのが楽しみです。



初めて陶芸をしたときは、自分が作った作品を持ち帰ることができず、かなり不服装な顔つきだった子ども達も、今では、これから行われる「焼き」の過程を想像できるのか、先生に、「お願いします」と作品を預けます。これも成長の証ですよ。

ところで、回を重ねると、すでにお皿やマグカップといろんなものを作っているのに、アイデアが尽きた感があって、何をつくろうか迷いそうなもので、実は、大人の中には、そんな姿もチラホラ。でも、工作好きなのびのびっ子は、どんどん新しい作品を作っていきます。以前は、小物のオンパレードだったものが、一点もの大きな作品が多くなりました。しかも、しっかり時間をかけ、丁寧に、キレイに仕上げています。まさに、作品がレベルアップしているようです。

もちろん、工作過程だけでなく、準備や片付けを自主的に行う姿にも、一回り大きくなったと実感しています。



焼き上がりまで、ちょっとバイバイ

「のびのび」の活動では、最初にスケジュールや手順書を確認するのですが、大人が配っていたものが、今では、子ども達が配布し、それぞれで確認します。支援を活用することに、自然に慣れてきたってことかもしれませんね。

[\(http://nobinobi.big-site.net/\)](http://nobinobi.big-site.net/)



発行：発達障害児支援サークル「のびのび」